

「いえいえ、お返しするわけにはまいりません。この薬はわたしが飲んでしまいます」と、ろう人はその一つぶをペロリと飲みこんでしまいましたすると、今までのろう人のきたないすがたは見る間に変わって、一人のりっぱな旅商人のすがたになりました。ろう人から急に旅商人に変わったすがたにおどろく、たろう

さんを見ながら、ろう人
だった旅商人はニッコリ
わらいました。「どうで
す、たろうさん、おどろ
いたでしょう。わたしは
一年前まではこんなすが
ただったのです。こうし
て毎日毎日お薬を売って
歩いたのです。売るお薬
というのはたった五つぶ
の丸い薬で、名前を『わ
か返り薬』というのでし
た。この薬を売って歩い

てみましたが、だれも本
当にしてくれませんでした
た。そのうちにあなたのお
じいさんばかりは本当
にして下さって、ねだん
はいくらだとおたずね下
さいました。わたしが、
『一つぶで一円、二つぶ
で十円、三つぶで百円、
四つぶで千円、五つぶで
一万円だ』と申しますと
『それではみんな買って
やるから、その中で一つ

ぶ飲んで見る』というお話です。わたしはおいしい事だと思いましたが、一つぶ飲みますと見る間に一年分だけわか返りました。しかしおじいさんは『一年分だけでは、こう